



笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

米作りの体験活動を通して

18日(月)に、稲刈りを行いました。

4年生と5年生が田植えをした苗が稲穂になり、2年生が作ったかかしに見守られて大きく実りました。その稲を5年生が刈り取りました。一面に実った稲を刈り取る作業は大変であったと思いますが、5年生の力で全ての稲を刈ることができました。刈り取った稲を束ねて紐で結ぶところまで5年生が活動しました。

刈り取って束ねられた稲を、3年生が学校まで何度も何度も運んでくれました。テーブルやブルーシートの上に、どんどん運び、置ききれなくなると、3年生が運んできた稲を6年生が受け取ってくれました。

6年生は、稲を干す「はぎかけ」を行う担当でした。はぎかけをする際には、稲を束ねた紐がゆるいと、干している間に稲が落ちてしまうので、紐の様子を見直し、手直しする作業も行ってくれました。

稲刈り後の田んぼには、1年生が行き、落ちていた穂を拾う「落穂拾い」の活動を行いました。稲のついた穂を見つけては集め、1年生が拾って集めた穂は、全部で3束くらいになりました。落ちた穂も大切にしていこう活動は、1年生にとって大変貴重な体験となりました。

それぞれの活動を通して、心が動かされる瞬間がたくさんあったことは、子供たちのいい表情から感じることができました。

校庭の南側に、稲が干されていますが、これから、稲が適度に乾いたところを6年生が稲運びをし、5年生が脱穀していきま

す。最後は、お店の方に依頼して精米を行い、できたお米は、給食でも活用され、子供たちが食すことになります。

稲は刈り取られることで、命を終えますが、私たちが食すことで、私たちの中にその命が引き継がれていく…。多くの命に支えられていることに感謝する思いを子供たちには大切にしてもらいたいと考えます。

稲刈りを行うにあたって、私からの話として、苗が育ち大きな稲になるまでの植物のもつ力の大きさ、生命力の素晴らしさについて触れ、最後は、私たちがその命をいただくことになるので、稲穂に感謝をしながら活動してほしいということ子供たちへ伝えました。

農林水産省のHPには、下記の内容が記載されています。

- ①500万トン～800万トン…日本が一年間に廃棄する食べ物の量
- ②71.7%…食卓に出した料理を食べ残した第一位の理由：料理の量が多かったため
- ③世界の人口約70億人、そのうち約8億人以上の人が満足に食事ができず困っている

世界には厳しい状況にある国が多くあることも理解しながら、同じ地球に生きる仲間として、日々の食事を大切にする思いを御家庭と共に育てていきたいと思ひます。

御礼

今回の稲刈り等の体験活動を行うに際して、入谷親藁会の方々が、朝早くから御指導・御支援してくださいました。またPTAの方々からもたくさんのお力をかしていただきました。御礼申し上げます。